

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2014

と き 平成26年10月29日(水)～30日(木)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

南方遺跡 岡山市北区国体町

岡山済生会病院の新病棟建設に伴い平成24・25年度にわたり発掘調査を実施しました。

25年度の調査では、古墳時代後期以降の河道や近現代の建物基礎などによって一部微高地が削られています。弥生時代前期後半から中期半ばを中心とした遺構が多数検出されています。調査区の北側では弥生時代前期の環壕とみられる大規模な溝や、弥生中期～古墳時代の土壇墓、東側一帯では弥生時代中期を中心とする竪穴住居、掘立柱建物、土坑(廃棄のための穴)、溝などが折り重なり合うようにみつっています。これは数百年単位で人々が南方遺跡に居住し続けた結果といえます。

調査では土器、石器、木製品などの遺物が多量に出土しました。なかには九州南部の土器が出土しており、遠隔地と交流があったことが分かります。

千足古墳 岡山市北区新庄下

千足古墳は、全長350mと全国第4位の規模を誇る巨大古墳「造山古墳」に随伴して、5世紀前半頃に築かれた、全長約81mの前方後円墳です。2011年12月に、第1石室内に置かれ、損傷した装飾文様のある石材の取り出しに成功し現在は墳丘全体の史跡整備を計画して発掘しています。

平成25年度の調査では、後円部墳頂から新たな横穴式石室(第2石室)を発見しました。遺跡の保護のため、掘り下げは途中で止めています。第2石室は第1石室とおなじく九州地方の影響を受けて築造された初期横穴式石室です。ただし入り口部分の作り方や、使用される石材に簡略化がみられ第1石室ほどの労力はかけられていないようです。第1石室の後、おそらく5世紀中頃までに築造されたと考えられます。副葬品は出土しておらず、盗掘を受けた可能性は低く、床面付近に副葬品が残されているものと思われます。

初期横穴式石室が2基並んで築かれる事例はほとんどなく、全国的に極めて貴重な発見といえます。

酒屋谷遺跡 岡山市北区御津伊田

酒屋谷遺跡は岡山市北区御津伊田に所在しており、道路建設に伴い平成26年2月から3月にかけて発掘調査が実施されました。旭川流域の東岸に位置し、支流である川と山裾に挟まれた立地で、過去には縄文土器が出土したことが知られています。今回の調査では主に弥生時代の遺構と遺物を確認することができました。弥生時代と考えられる遺構は、竪穴住居や掘立柱建物、ピットや溝などを検出しています。竪穴住居については、3軒分が調査区の中央部で発見されています。これらの住居の近くには、溝が横切る形でみつっており、関連性のある水路と捉えられます。

調査区の西側は隣接する川の旧河道となっており、逆に東側は確認される遺構の密度が低いことが分かりました。こうした状況や微高地地形の広がりからも、当時の生活拠点の中心は、今回の調査区から上にのぼった地点にあるものと推測されます。また、出土土器の中には縄文時代後期のものがみられ、これについては過去の出土例を裏付ける内容となっています。

岡山城跡 本丸下の段 岡山市北区丸の内

史跡岡山城跡では、保存整備事業の一環として本丸下の段(テニスコート跡地)の発掘調査を行っています。今回の調査は檜櫓、旗櫓、および「御城内御絵図」に「御門」と記されている供腰掛北側の門の残存状況および構造を明らかにすることが目的です。

櫓の調査では南北16.5m、東西1.5mの石垣が確認されました。石垣の西側には、絵図にない石段がみつかり、必要に応じて改築されていたことがわかりました。

旗櫓は現在でも一部が地上に出っていますが、この調査で、東西約10.5m南北約9m、高さ3m以上の石垣が確認されました。石垣の北側と西側には石段がみつかり幾度も改築されていたことがうかがえます。

供腰掛北側の門の調査では、南北に伸びる土堀の基礎である石列を検出しました。石列は絵図に描かれた「御門」の位置にあたるため、門が撤去された後土堀に造り変えられたと考えられます。

遺物は、近世陶磁器、瓦、貝殻などのほかに旧制一中に関連すると思われる三角定規やボタンなども出土しています。

岡山城三之外曲輪跡 岡山市北区中山下

病院建設に伴って、旧深柢小学校の校地内を発掘調査しました。平成25年度に引き続き、平成26年8月まで発掘しました。江戸時代に岡山藩が作成した城下町絵図によると、調査地点は三之外曲輪と呼ばれる武家屋敷地であったと記されています。

発掘調査では、江戸時代前期～中期(17～18世紀)の武家屋敷地を確認しました。調査範囲は非常に広がったため、一度に複数の屋敷地を発掘できました。1年半に及ぶ調査の結果、11件の屋敷地の存在を確認したことになります。各屋敷地の境界は直線上に並ぶ柱穴列(板塀)や、石組の排水溝によって区画されていました。各屋敷地では、井戸や厠(トイレ)のほか、茶碗や壺など、当時の武士たちの暮らしぶりを伝える生活用品や施設跡が確認できました。

これらのほか、実際に発掘調査で確認された土地利用の状況と江戸時代の絵図を較べると、調査地点周囲の道路・建物の配置は江戸時代と大きく変わることなく、現在の市街地に受け継がれていることがわかりました。

もっと知りたい!という方は・・・ ”埋蔵文化財発掘調査報告会” に是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●と き 11月8日(土) 13:30～ ●ところ 岡山市埋蔵文化財センター (岡山市中区網浜834-1) TEL (086) 270-5066 *11月7日(金)までに左記に要予約のこと

また岡山市シティミュージアム(岡山市北区駅元町)にて、2014/11/22(土)～2015/2/8(日)まで、出土遺物を展示します。(入館料が¥300かかります)